



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン (第 43 号 2015/10/14 発行)



<<http://www.iima.or.jp/>>

新刊案内 : 佐久間浩司 著 「国際金融の世界」 日経文庫 (2015.9.16 発行)



\\1. 理事長 行天豊雄 コラム／

習伯伯の行方

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20151014gyoten.pdf>>

何かと中国の話題が多い昨今である。天津の工場爆発に始まって、上海株の乱高下、人民元切下げ、成長減速、対日勝利 70 周年、習近平訪米等々。これらの出来事…

\\2. 客員研究員 渡邊隆彦 コラム／

「Physical なもの」の底力、或いは金融技術の本質について

<<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20151014watanabe.pdf>>

マイケル・ルイスのノンフィクション小説「フラッシュ・ボーイズ」には、シカゴ・マーカンタイル取引所のデータセンターと、ニュージャージー州にあるナスダックのデ…

■ ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<http://www.iima.or.jp/index.html>>

1. 「ようやく大筋合意に至った環太平洋パートナーシップ協定」 山口綾子
2. 「バブルの最終処理をどうするか？」 森川央
3. 「習近平中国国家主席の訪米によって世界はどのように変わるのか
～国際金融機関、国際援助協力の分野で変革はもたらされるのか～」 梅原直樹
4. 「警戒水域に入ったアジア経済」 森川央
5. 「発展段階が移行しつつある日本の国際収支」 中村明

■ IIMA Global Market Volatility Index ・ 購買力平価グラフの更新

<<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

《掲載内容》

○IIMA Global Market Volatility Index

(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)

○購買力平価グラフ

(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■ 今月の新着レポート

1. 「カザフスタン経済～外部要因が今後を左右する～」 阿南鉄朗

<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_27_j.pdf>

カザフスタンは豊富な資源、ロシア・中国の二大国に隣接している地域的優位性、そして大統領の強力なリーダーシップにより、高成長を実現した。しかし、今後はこれら三つの状況によっては、逆効果をもたらす可能性があるかもしれない。

2. 「ユーロの国際的役割

～ユーロ・ソブリン危機は国際通貨としてのユーロ使用に大きな変化をもたらしたのか?～」 山口綾子

<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_26_j.pdf>

ユーロ・ソブリン危機により、一部でユーロの国際的地位が低下したとの見方がある。しかし、為替相場変動の影響を除くと、ユーロのシェア低下は限定的。米ドルに続く第2の国際通貨として引き続き重要。

3. 「日本の経常黒字の構成変化におけるアジアの役割」 中村明

<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2015/272_j.pdf>

2011年以降の経常黒字の持続に寄与してきたのは、主としてサービス収支の赤字縮小と第一次所得収支の増加である。本稿では、これらサービス収支と第一次所得収支の推移を概観したうえで、その背景にある海外地域の動きをアジアに焦点を当て考察する。

■ 今月の IIMA

早いもので、ある外部委託調査でのバンコク出張から約2ヵ月が経過しました。報道によれば、爆弾テロの実行犯である黄色いシャツの男が逮捕されたとのこと。一安心ではありますが、一刻も早い全容の解明と今後の観光業をはじめとするタイの経済回復を願ってやみません。

さて、世界経済の目下の関心事は、やはり米国の利上げでありましょ
う。先月の FOMC では、堅調な米国経済の一方で減速する世界経済を懸
念して、利上げが見送られましたが、FRB 参加者の多くは、年内に 1 度
以上の利上げを見込んでおり、年内残り 2 回となった FOMC で利上げが
決定されるのか、注視する必要があります。8 月の中国発の世界同時株
安が収まり、IIMA で作成・公表している株式・債券・為替市場のボラ
ティリティ（投資家のセンチメント）を示す指数 IIMA-GMVI も一旦はあ
く抜けた形ですが、年末にかけて各市場が大きく変動する可能性が高く、
引き続き分析をして参りたいと思います。

【バックナンバー】

<<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>>

【次号】

2015 年 11 月 10 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<<https://m.entryform.jp/m/iima/>>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<<http://get.adobe.com/jp/reader/>>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.